



夢実現への道、このまちできっと見つかるはず…。

## 新大分土地株式会社

本社：大分市中央町1-5-25新大分ビル4F  
TEL.097-534-3371 FAX.097-536-3522

府内営業所：大分市府内町1-6-19三浦ビル1F(サンサン通り)  
TEL.097-536-2002 FAX.097-533-9081

E-mail.tochi@shinoita.com

<http://www.shinoita.com>

d,d style vol.3 平成16年3月発行 企画・編集:d,d project



視点を变えてまちを見つめると、いろんな可能性が見えてくる。

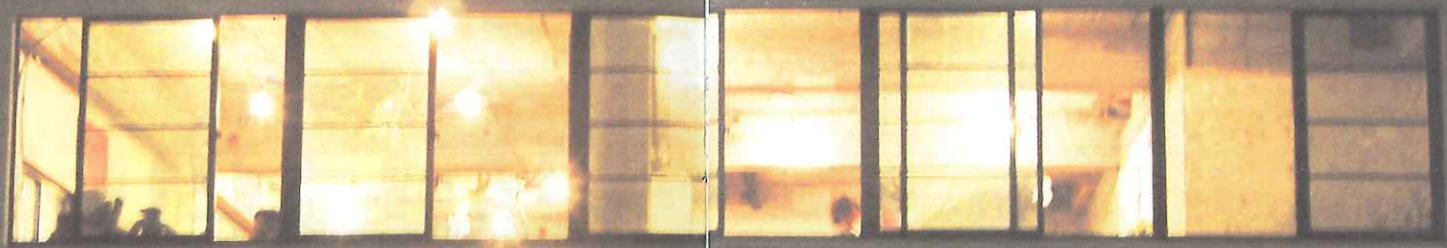
# d,d style

おおいたのまちを刺激するフリーマガジン VOL.3

特集：その夜、廃墟で。

無料

ご自由に  
お取りください



2003.10.31 FRI  
**slow dining**  
テアトロ島中!

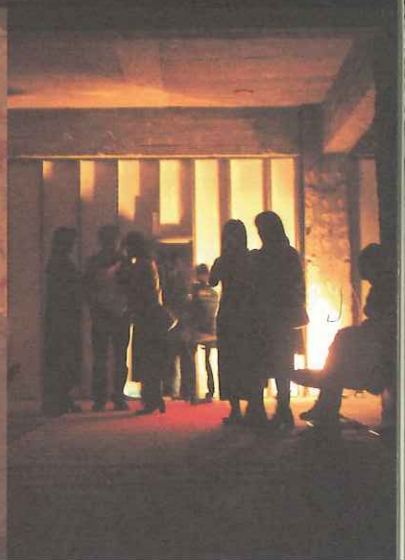
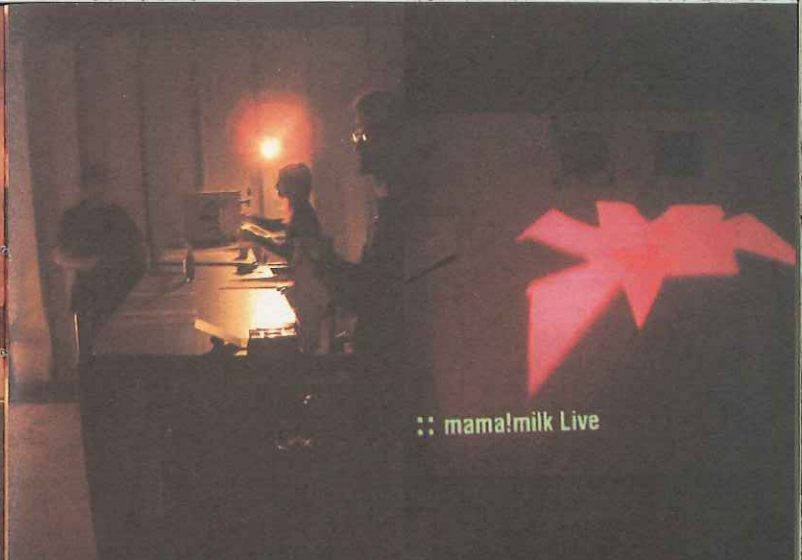
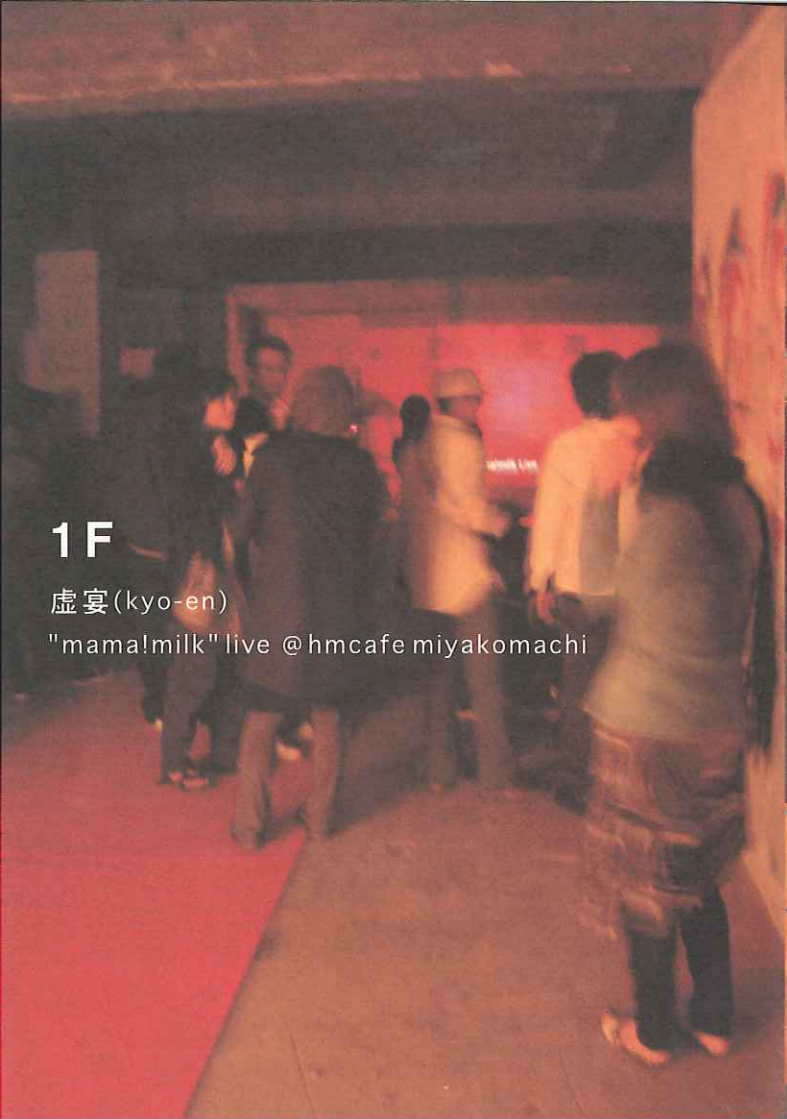
2003 10.31 Fri

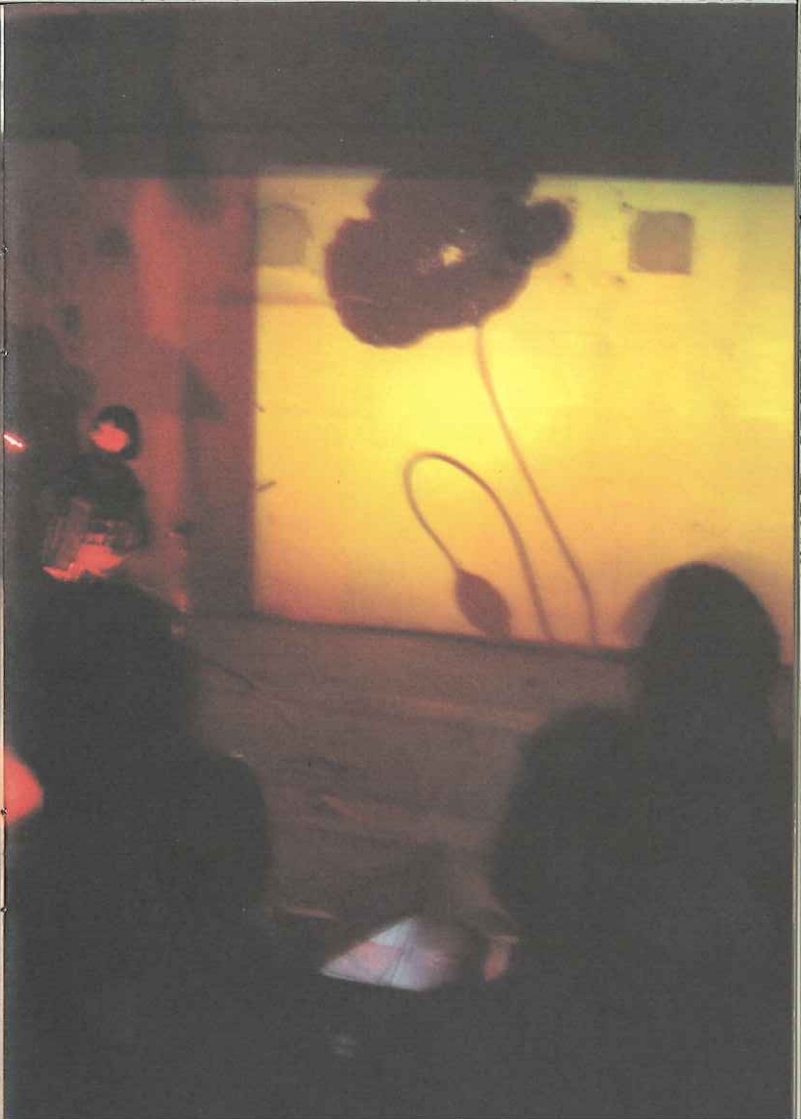
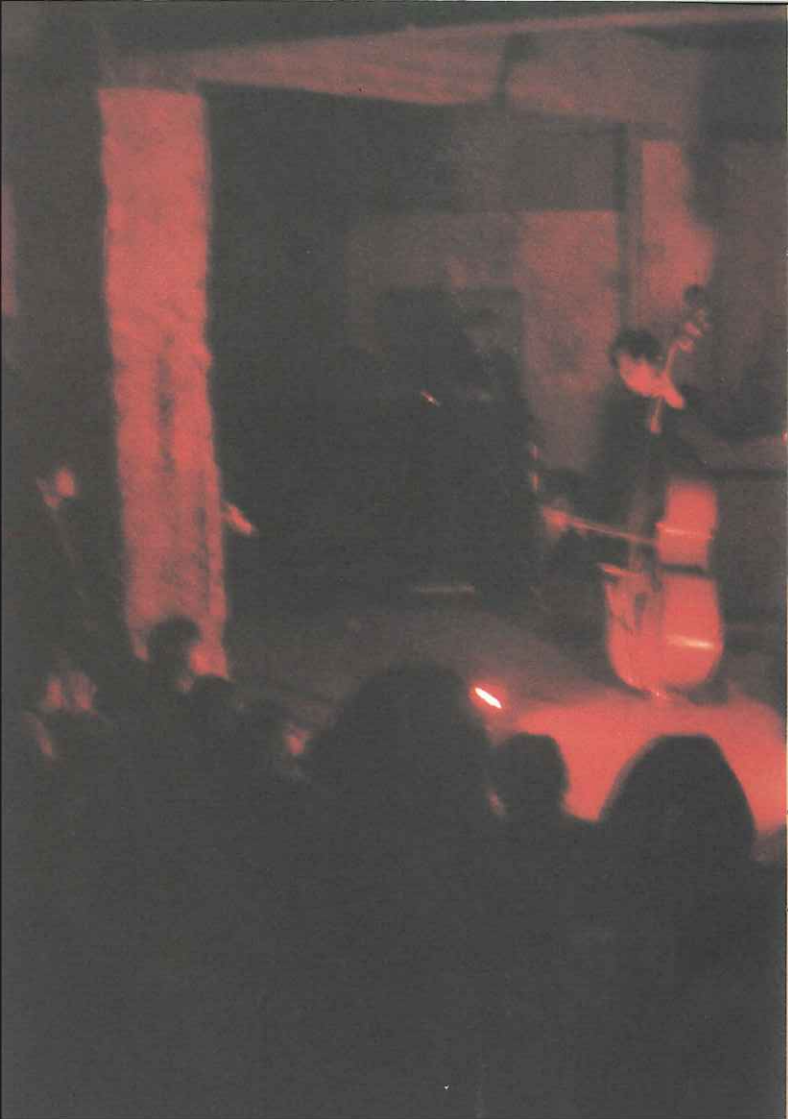


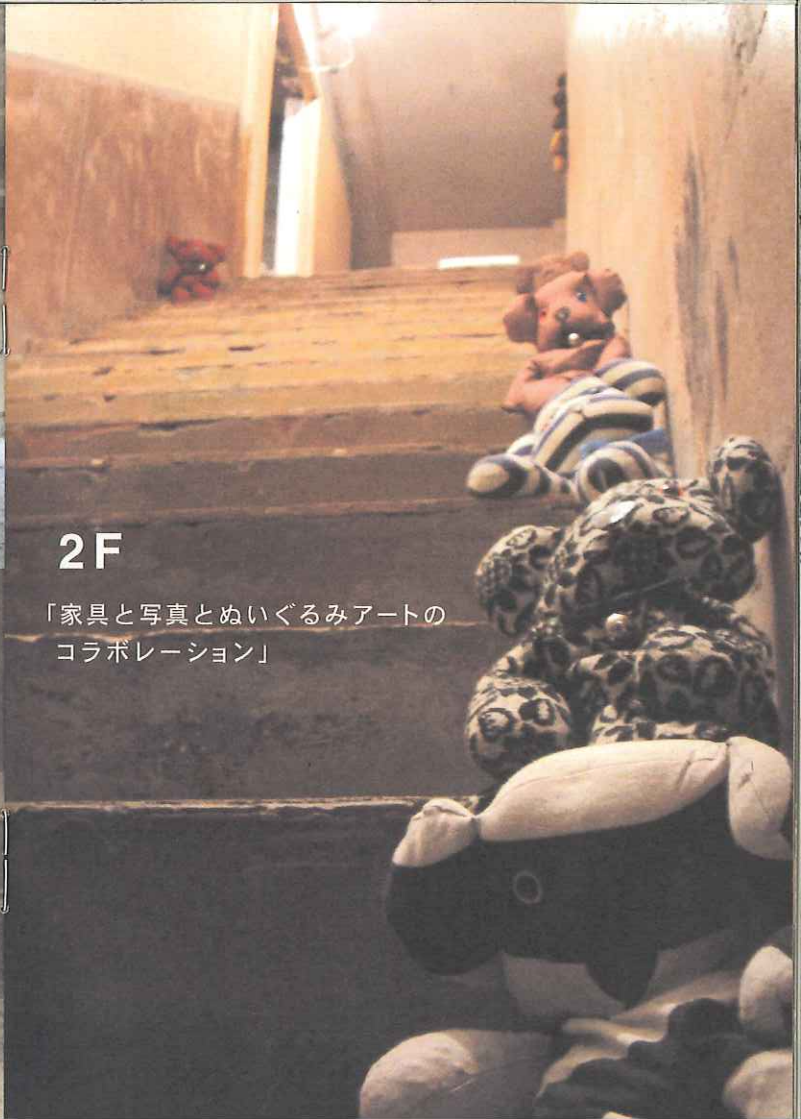
1F

虚宴(kyo-en)

"mama!milk" live @ hmcafe miyakomachi

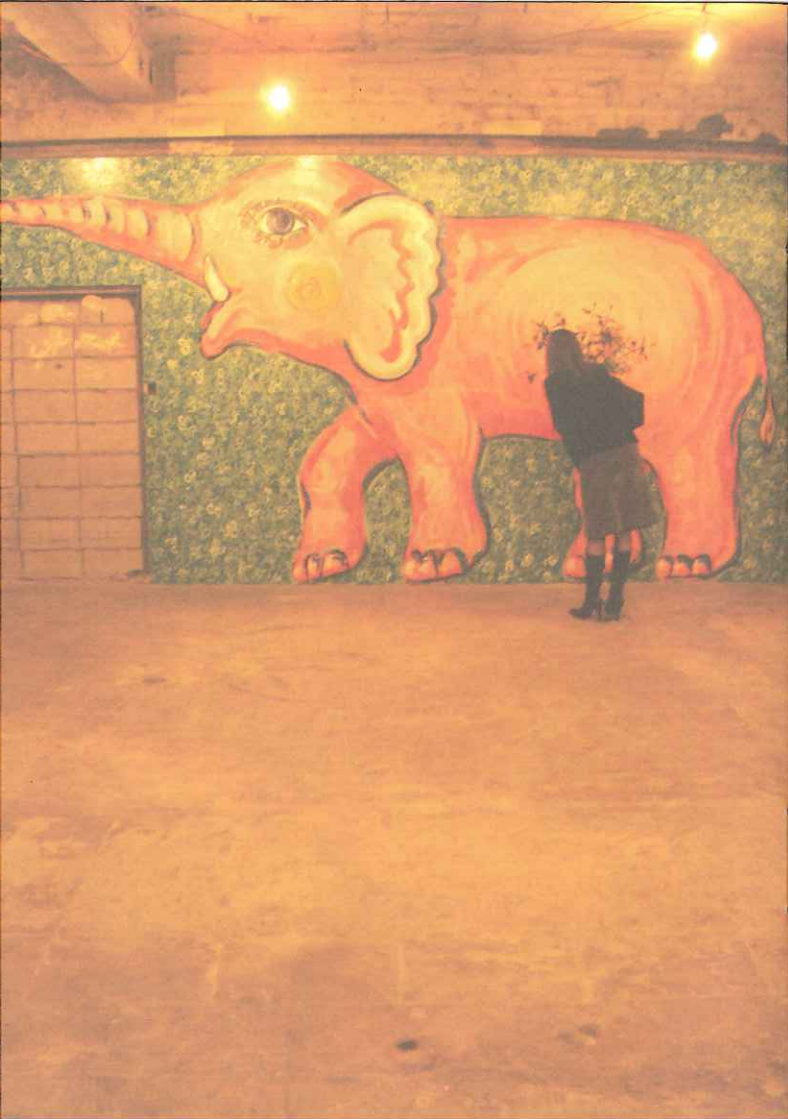


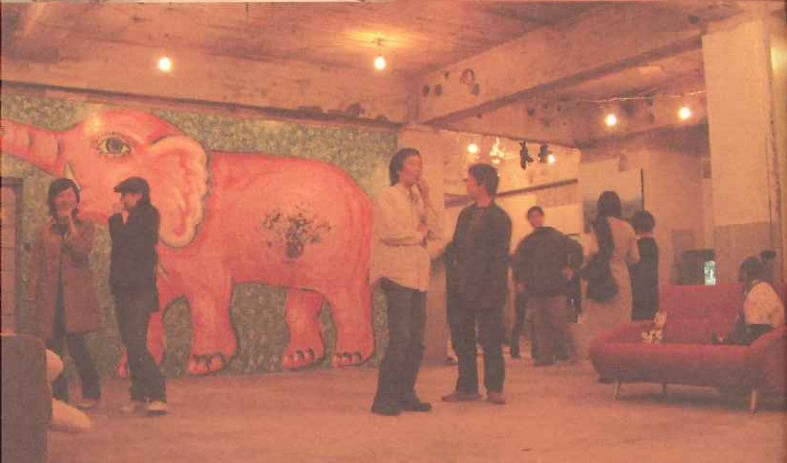




2F

「家具と写真とぬいぐるみアートの  
コラボレーション」





## " 廃墟 " が新しい生命を宿した夜。

大分市都町に、築30年以上を経た古いビルがある。以前、このビルはある居酒屋チェーンが入居していたが、退去とともに、ビルの入口は安全上の問題からかたく閉ざされ、その内部は近未来SF映画に出てくるコンクリートむき出しの" 廃墟 " のような状態になっていた。エレベーターもない4階建ての古いビル、後は取り壊され新しいビルが建つのも時間の問題と見られて当然の建物である。

ところが、この" 廃墟 " を魅力ととらえ、ここでライブイベントを行いたいと申し出た人間がいた。なるほど、あらゆる設備が取り除かれたビルのフロアーは、ライブを行うには充分なスペースがある。だが、電気・ガス・水道の設備がないビルでライブが行えるものだろうか。

この問題に対して、主催を申し出たアムカフェ(大分市内町)は「設備が整っていることよりも、

無機質な" 廃墟 " な空間の力強さはライブハウスやコンサートホールにはない魅力がある! 飲み物は持ち込んで、一夜限りの出張カフェをオープンすればいい。」という提案を行った。ビルのオーナー側もアムカフェの熱意に打たれ、「電気はなんとかしよう」とイベントの開催に前向きになった。

時を同じくして、同ビル2階で大分在住のアーティストによる作品展と、アムカフェの姉妹店であるCICOU life designの家具の展示会が開催されることになった。

その後、計画は着々と進行。イベント関係者は埃が舞うスペースを掃除したり、照明を取り付けたりなど、準備を急いだ。そしてついにイベント当日を迎えた。

開場とともに2階の「家具と写真とぬいぐるみアートのコラボレーション」会場には若い人々を中心にさまざまな人々が訪れはじめ、静かな熱気に覆られていった。

作品展に参加したアーティストは、写真の久保貴史、ぬいぐるみアートと象の壁画の安部泰輔、フラワーデザインの田北祐香の三人と、家具のCICOU life designだ。アートやデザインという共通項はあるものの、統一のテーマがない作品展。それにもかかわらず、それぞれの作品が不思議な調和を醸し出し、会場は誰にとっても居心地のいい空間になっていった。なぜ、このような独特の空気感が生まれたのだろうか。その理由は、もしかすると、コンクリートむき出しの壁や床や天井にあったのかも知れない。背景が無機質であればあるほど、人の手でつくられた作品が浮き立ち、それぞれの作品が「有機的に」結びつき、この空間でしか生まれない雰囲気になっていったのだろう。

居心地のいい空間は自然に来場者の足をとめ、1階で開催される「虚宴(kyo-en)」開演が近づくと、熱気はその温度をより高めていった。

mama!milk liveは、ウッドベースとアコーディオンの夫婦ユニットに、DJ、VJ、で構成されたライブ。若者を中心とする来場者は、これまでに経験したことのない空間でのライブということもあり、おおいに盛り上がったことはいまでもないだろう。ある来場者は「こんな空間がいつもあればいいのに…」と、一日限りのイベントを心から残念がっていた。

ライブや作品展によって、この古いビルに集まってきた人々はこの夜、本来の目的とは別にこの廃墟な空間の不思議な魅力を体感した。そして「ここに住みたい、ここに店をつくりたい」といった新たな可能性が見えてきた。

そんな若い人たちの思いを受けてこのビル(新大分第2ビル)は新しい価値をもった、店舗とアパートメントとして改装され、今春、「スロウダイニングビル」としてデビューする。